

子どもの悲鳴が聞こえますか！

今年3月、奈良県で5歳の男児が両親から食事を与えず餓死するという痛ましい事件が発生しました。

逮捕された母親は、「3年ほど前から夫婦仲が悪くなり、夫に似ている息子が憎く、叩くようになった」と供述しています。

今年4月には、大阪府堺市で1歳の幼児を母親の交際相手から虐待した結果死亡させるという事件も起きました。

ここで筆者の身近であった事例を紹介します。

再婚した妻には、前の夫との間に生まれた幼い娘がいました。再婚した夫にも前の妻との間に二人の幼児がいました。一緒に生活するようになり、ある時、その幼い娘は、義理の弟妹たちにいたずらをしてしまいました。そのことに腹を立てた義理の父は、しつけのため、厳しく叱るようになり、それが日常化し、虐待へとエスカレートしていきまし

た。妻は、最初の間は、娘をかばい自分が叩かれていまし

たが、次第に自分もわが娘をひどく叩き虐待するようになります。

その娘は、水を飲むにもビクビクしながら飲んでいたり、います。ある時、その娘が「私は生まれてこんな良かった：ことつばやいた言葉に、母親は我に返ったとい

ます。すぐに、実家の両親に相談し、その両親が親代わり

に養育することになり、娘は落ち着きを取り戻し始めまし

た。母親が子どもの様子に気づき、実家へ相談したことで、大事にならずにすみしました。誰か相談できる人がいることで、子どもを守ることができたのです。

厚生労働省が2007年から2008年に把握した虐待で死亡した子どもの数は、78人だそうです。身体的虐待が7割。育児放棄（ネグレクト）が3割。地域社会との接触が「ほとんどない」家庭も約3割あったそうです。

こういった虐待事件に共通するのは、親子の良い関係が

うまく創れず、子どもを「じゃま者扱い」にする大人の身勝手な考え方です。

また、児童虐待は、上記のような条件に限らず、無自覚の虐待（揺さぶられっ子症候群・自動車内への放置など）もあります。

どうすればこういう悲惨な虐待を防ぐことができるのでしょうか。

家庭では、子どもが安心して過ごせるよう、家族で愛情いっぱい育てる。困った時はいつでも相談できる家族や信頼できる友だち関係が築けるよう努める。

地域では、気軽に相談できる近所付き合いや声をかけ合うまちづくりに努める。など、私たち大人が、自分の身のまわりをもう一度点検し、弱い立場の子どもに対して敏感になる必要があるのではないのでしょうか。子どもを守るのは私たち大人です。

あなたには、子どもの悲鳴が聞こえますか！

益城町教育委員会

ふるさとの地名漫歩

歴史の変遷と地名

矢嶋姉妹周辺⑫

一 日本人の倫理形成の原点
多くの「日本人論」がある中で、先に紹介した世界的に有名な新渡戸稲造著「武士道」があります。明治32年に原文は英語でアメリカで出版され、翌年日本でも翻訳出版されました。

この著書では、武士の道徳である義・勇・敢為・堅忍の精神・仁・礼・誠・名誉・忠義・克己の道徳は日本人の普遍的な人格形成の規範であり、西洋のキリスト教的個人倫理に比肩されるものであると強調しており、英語圏・ドイツ語圏・ポーランド語圏などが国で翻訳出版されました。

- 二 その基本理念
- 一 義（正義に基づく義務の遂行）
- 2 勇気（忍耐と剛毅）
- 3 仁（博愛と寛大）
- 4 礼儀（謙譲と誠実）
- 5 名誉（廉恥心）
- 6 忠義（忠実と献身）
- 7 克己（平静と沈着）

これが武士の徳目、広くは日本人の道徳・精神文化の原形で、基本は「名誉心の文化」で、①義理の返済、②名誉の回復、③家門の体面に要約できます。

アメリカの女性人類学者ルース・ベネディクトの「菊と刀」では、この心理を分析し、日本の上下関係の社会は、周囲の評価を自分の行動原理とし、個の行動原理を持たないとして日本文化を「恥の文化」と定義しました。

1 神道（清浄・清廉・潔白を旨とし、汚濁を卑しむ基本観念）

2 仏教（諸悪莫作・諸善奉行の教により熟成された道徳）

3 儒教（五倫Ⅱ君臣の義・父子の親・夫婦の別・長幼の序・盟友の信Ⅱ社会全体の信頼感）



ルース・ベネディクトの「菊と刀」

益城町文化財を訪ねる会
会長 松野國策